

小田原市自転車等の駐車対策に関する総合計画  
(小田原市駐輪場整備計画)  
概 要 版

平成 27 年 3 月  
小 田 原 市

## 目 次

1. 背景と目的.....	1
2. 小田原市の現況 .....	3
3. 小田原市の駐輪場状況（駐輪実態等調査結果） .....	7
4. 駐輪場整備の目標年次および目標量 .....	16
5. 駐輪場整備に関する課題.....	18
6. 課題・基本方針・基本施策のまとめ .....	20
7. 駐輪場整備に関する基本方針 .....	21
8. 駐輪場整備に関する基本施策 .....	22

# 1. 背景と目的

## (1) 背景

自転車は日常生活における身近な移動手段であるが、近年では健康増進やサイクリングなど、利用目的の幅が広がっており環境意識の高まりとともに、環境にやさしい乗り物としても、注目されている。

本市においても、多くの住民が身近な交通手段として、通勤、通学、買い物などに自転車を利用しており、鉄道駅における駐輪需要や商店街における路上駐輪の実態を踏まえ、自転車交通の利用促進のため計画を策定するものである。

## (2) 目的

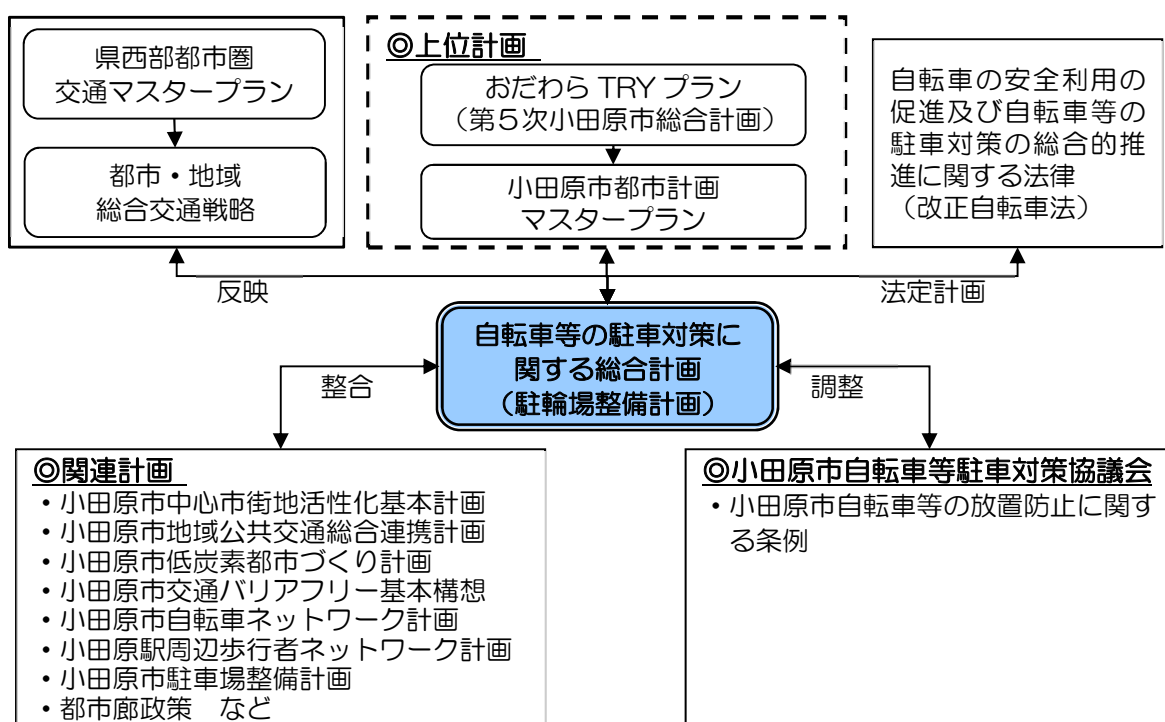
本計画は、駐輪場に関する課題を整理し、駐輪需要に基づく駐輪場の適正配置、有料化等による整備を推進し、自転車に係る交通環境の整備、安全性の確保、交通の円滑化を図り、自転車交通の利便性を増進させるとともに、あわせて公共交通の利用促進を図り、中心市街地の活性化や集約型都市構造に備えるため策定するものである。

### 【位置付け】

駐輪場整備計画（自転車等の駐車対策に関する総合計画）は、上位計画である小田原市総合計画、都市計画マスタープランの考え方、また、神奈川県西部都市圏交通マスタープランおよび都市・地域総合交通戦略の考え方を反映し、市が取り組んでいる中心市街地活性化基本計画などと整合したものとす。

### 【改正自転車法に基づき、自転車等の駐車対策に関する総合計画（駐輪場整備計画）に定める事項】（第7条）

- ・ 総合計画の対象とする区域
- ・ 総合計画の目標及び期間
- ・ 自転車等駐車場の整備の目標量及び主要な自転車等駐車場の配置、規模、設置主体等その整備に関する事業の概要
- ・ 自転車等駐車場の設置に協力すべき鉄道事業者の講ずる措置
- ・ 放置自転車等の整理、撤去等及び撤去した自転車等の保管、処分等の実施方針
- ・ 自転車等の正しい駐車方法の啓発に関する事項
- ・ 自転車等駐車場の利用の調整に関する措置その他自転車等の駐車対策について必要な事項



【検討範囲】

検討の対象区域は、本市全域とする。なお、特に自転車・歩行者交通が多い、小田原駅、鴨宮駅、国府津駅周辺については、その中でも重点的に取り組む区域として位置づける。

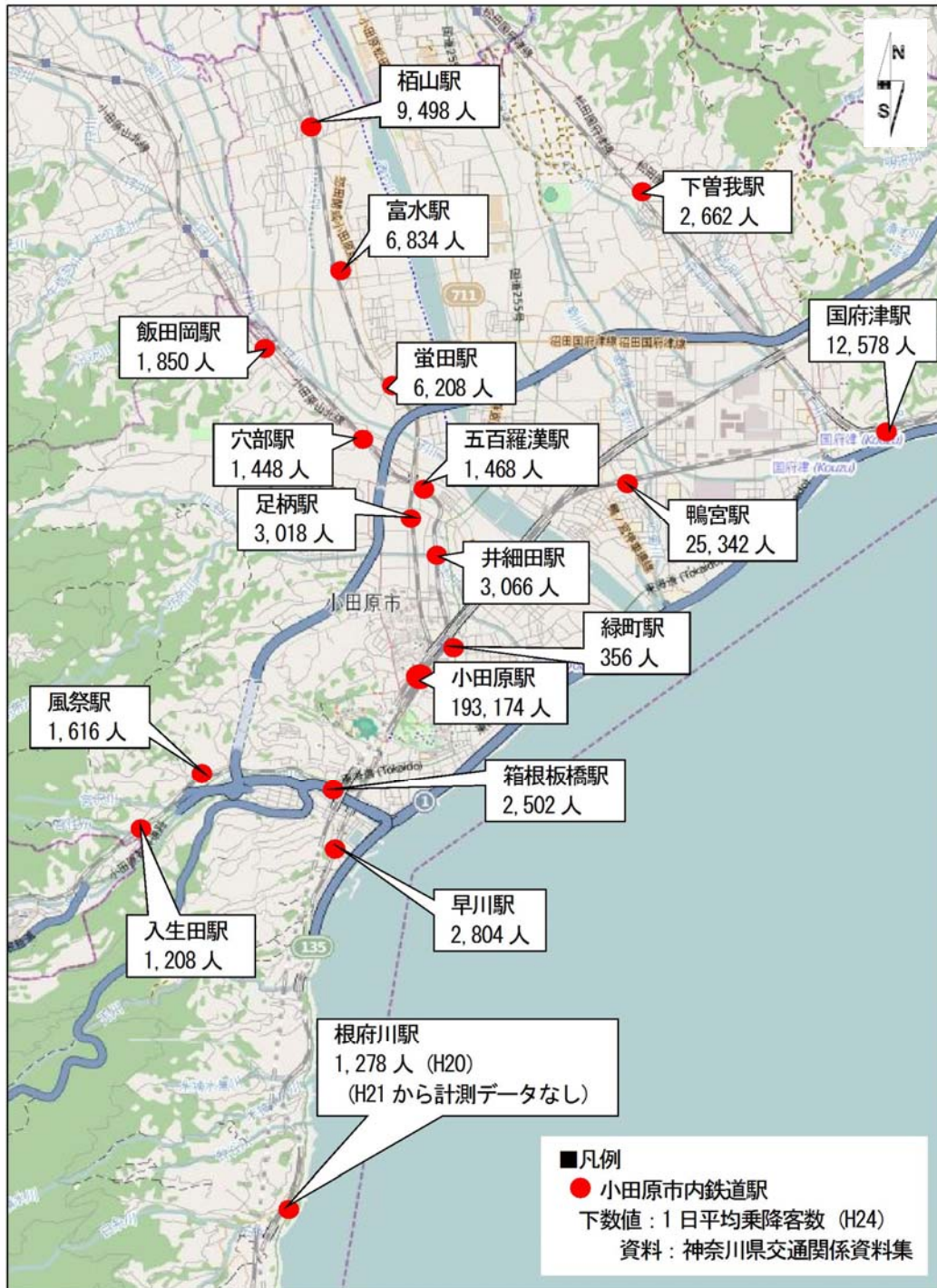


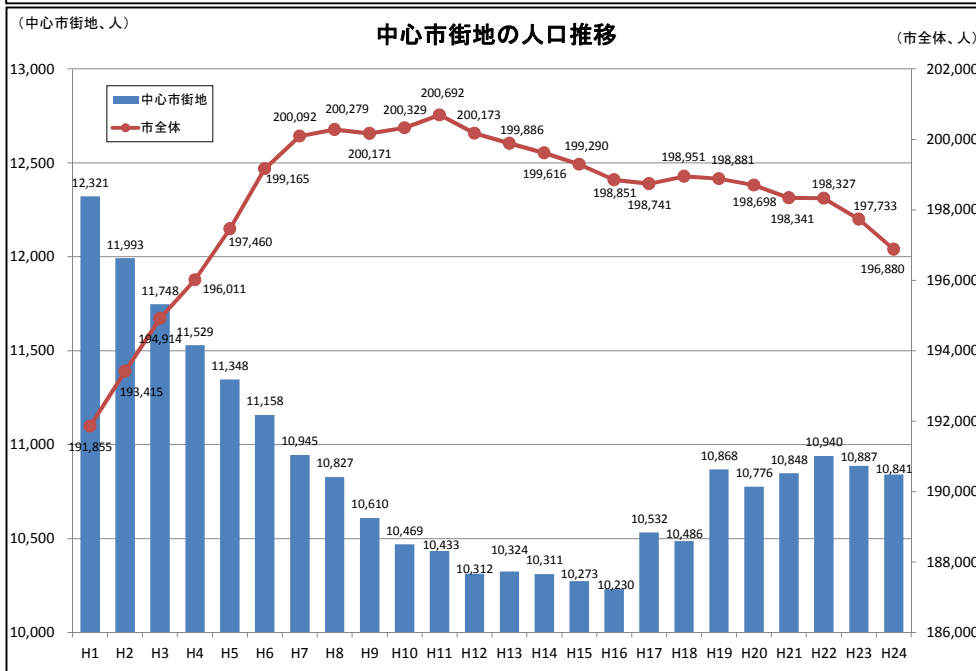
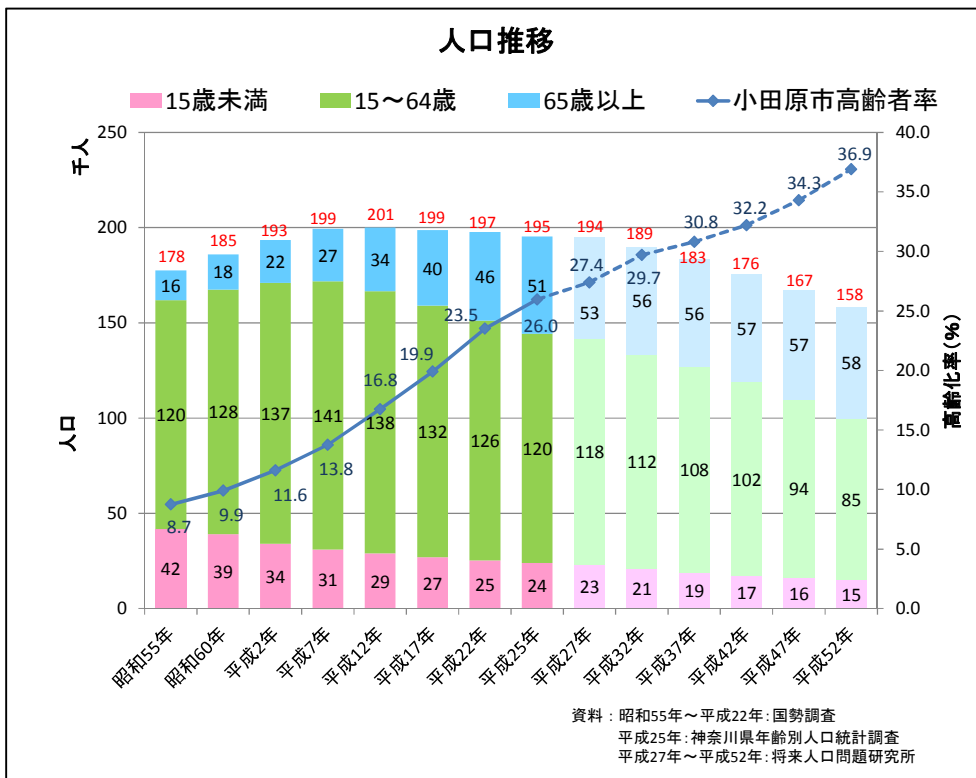
図 検討対象範囲

## 2. 小田原市の現況

### (1) 人口

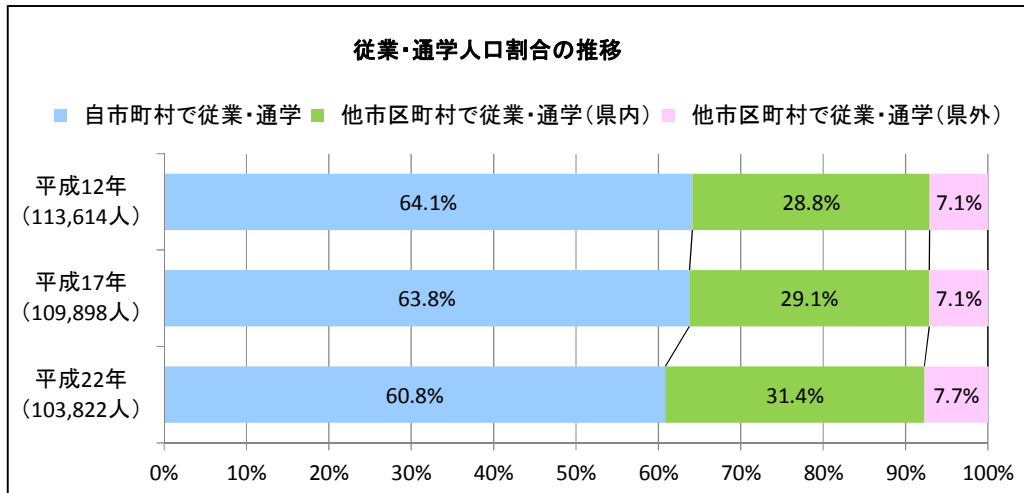
本市における人口は減少傾向にあるが、高齢者の割合（65歳以上人口比率）は、平成25年において26.0%となっている。平成37年には、高齢者の割合が30%を超えると予想されている一方で、64歳以下の人口は減少傾向にある。

また、中心市街地の人口は、平成16年以降はわずかながら増加傾向にある。平成24年の人口は、10,841人であり概ね平成8年ごろの水準となっている。



## (2) 通勤・通学者

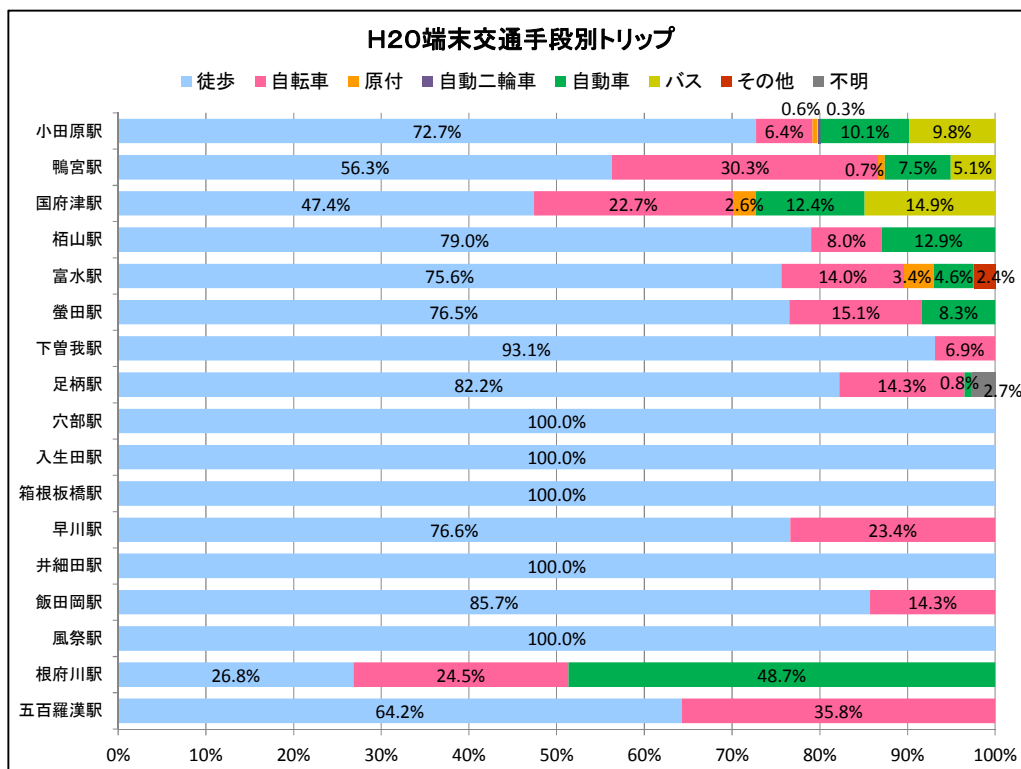
本市の従業・通学人口は、平成12年から約8千人減少している。市内で従業・通学する割合は低下している状況にある。



※「不詳」は除く 四捨五入により100%とならない場合がある

## (3) 駅端末交通手段

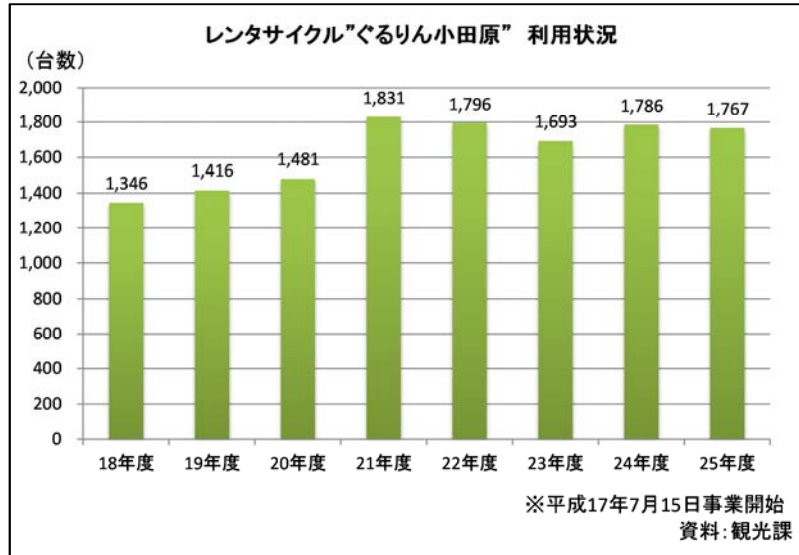
鴨宮駅、国府津駅、早川駅、根府川駅、五百羅漢駅において、20%を超える自転車分担率となっている。



※四捨五入により100%とならない場合がある

(4) ぐるりん小田原利用状況

本市では平成17年からレンタサイクル事業（ぐるりん小田原）を開始している。利用状況は、平成21年度をピーク（1,831台）に横ばいである。



(5) 放置自転車撤去状況

本市の放置自転車状況は、平成21年から減少傾向にあるものの、平成25年でも2千台を超える撤去台数がある。

※平成24年から撤去方法に変更があったため、数値が少なくなっている。

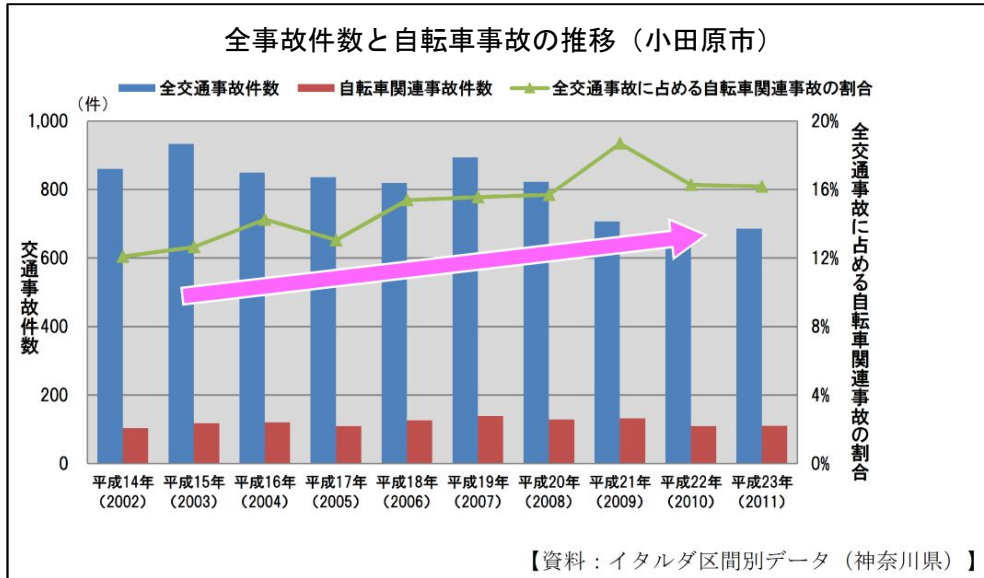
表 放置自転車撤去状況

放置自転車撤去実績	H21	H22	H23	H24	H25
小田原駅東口	1,679	1,590	内訳不明	854	935
小田原駅西口	65	65		25	46
鴨宮駅南口	290	344		109	110
鴨宮駅北口	346	257		158	162
国府津駅	21	12		(不明)1	81
早川駅	22	5		1	0
下曾我駅	10	15		18	28
足柄駅	166	107		15	31
蛍田駅	24	6		3	4
蛍田駅(蓮正寺住宅前)	10	0		0	3
富水駅	59	33		12	25
栢山駅	60	6		6	8
井細田駅	4	4		0	6
五百羅漢駅	3	0		0	0
飯田岡駅	8	3		0	3
箱根板橋駅(大窪公園)	9	4		0	2
根府川駅	0	0		0	0
緑町駅	3	0		0	0
穴部駅	0	0		0	0
風祭駅	0	0		0	0
入生田駅	2	0		0	0
小田原警察署	0	0		0	1
その他	212	143		256	669
計	2,993	2,594	2,347	1,458	2,114

資料：小田原市資料

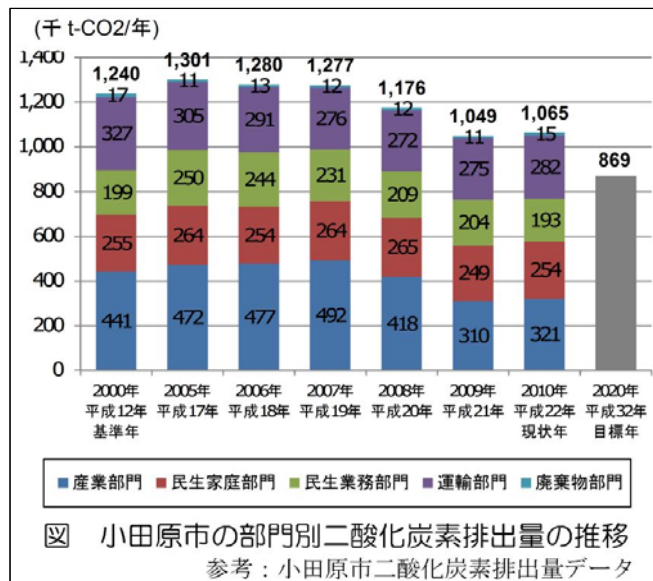
(6) 交通事故件数

交通事故件数は減少傾向にあるが、自転車関連の事故件数は、横ばいの状況となっている。全交通事故に占める自転車関連事故の割合は増加傾向となっている。



(7) 二酸化炭素排出量

近年、地球温暖化による気温上昇や異常気象の増加など、環境問題が深刻化している。本市においては、二酸化炭素の排出量のうち、民生（家庭・業務）部門および運輸部門からの排出量が約7割を占めている。





### 3. 小田原市の駐輪場状況（駐輪実態等調査結果）

本市が抱える問題点や課題を整理するため、市内の各鉄道駅や、小田原駅周辺の路上駐輪自転車等の位置・数、利用実態や利用者意識等を把握する駐輪実態調査を実施した。

#### (1) 施設分布

駐輪場が整備されている駅は、市内 18 駅のうち小田原駅、鴨宮駅、国府津駅、早川駅、下曽我駅、足柄駅、蛭田駅、富水駅、栢山駅、井細田駅、五百羅漢駅、飯田岡駅、箱根板橋駅の 13 駅となっている。

表 各鉄道駅の駐輪場収容台数

No	駅名	乗降客数 ※1	駐輪場名	収容 台数	種別 (料金)	定期利用定数	定期待機台数 (自転車) (H26.5月時点)	設置主体
1	小田原駅	193,174	小田原駅東口	1,290	有料	自転車:966台 原付:142台	71台	小田原市
2			西口第1	631	有料	自転車:396台 原付:79台 バイク(大):9台	86台	小田原市
3			西口第2	76	有料	原付:76台	—	小田原市
4			オダクル小田原東口	80	有料	—	—	小田急電鉄
5			オダクル小田原西口	138	※2 有料	—	—	小田急電鉄
6			ショウワパーク	99	有料	—	—	ショウワ電技研株式会社
7	鴨宮駅	25,342	鴨宮駅南口	997	有料	自転車:856台 原付:20台	55台	小田原市
8			鴨宮駅南口無料	300	無料	—	—	小田原市
9			鴨宮駅北口	1,011	※2 有料	自転車:921台	107台	小田原市
10			鴨宮駅北口第2	78	有料	原付:78台	—	小田原市
11			飯山パーキング	70	有料	定期利用可能 (台数不明)	—	民間
12			飯山自転車店	100	※2 有料	—	—	民間
13	国府津駅	12,578	国府津駅	1,700	無料	—	—	小田原市
14	早川駅	2,804	早川駅	180	無料	—	—	小田原市
15	下曽我駅	2,662	下曽我駅	280	有料	自転車:226台 原付:20台	—	小田原市
16	足柄駅	3,018	オダクル足柄第1	99	※2 有料	—	—	小田急電鉄
17			オダクル足柄第2	328	有料	自転車:283台 原付:45台	—	小田急電鉄
18	蛭田駅	6,208	蛭田駅	250	無料	—	—	小田原市
19			蓮正寺住宅前	198	無料	—	—	小田原市
20	富水駅	6,834	富水駅	350	無料	—	—	小田原市
21			オダクル富水第1・第2	682	有料	自転車:603台 原付:79台	—	小田急電鉄
22	栢山駅	9,498	栢山駅	712	無料	—	—	小田原市
23			オダクル栢山	386	有料	自転車:287台 原付:47台	—	小田急電鉄
24	井細田駅	3,066	井細田駅	28	無料	—	—	伊豆箱根鉄道
25	五百羅漢駅	1,468	五百羅漢駅	80	無料	—	—	伊豆箱根鉄道
26	飯田岡駅	1,850	飯田岡駅	200	無料	—	—	伊豆箱根鉄道
27	箱根板橋駅	2,502	大窪公園	150	無料	—	—	小田原市
28	根府川駅	1,278	設置なし	—	—	—	—	—
29	緑町駅	356	設置なし	—	—	—	—	—
30	穴部駅	1,448	設置なし	—	—	—	—	—
31	風祭駅	1,616	設置なし	—	—	—	—	—
32	入生田駅	1,208	設置なし	—	—	—	—	—
計		267,470	—	10,493	—	—	319台	—

※1 1日平均乗降客数は、神奈川県交通関係資料集より参照（平成24年データ、ただし根府川駅は平成20年データ）

※2 原付利用不可の駐輪場

利用実態調査の方法

1日3回朝昼夕方に駐輪場の駐輪台数を観測し、空満状況の把握をおこなった。

(2) 小田原駅駐輪場利用状況

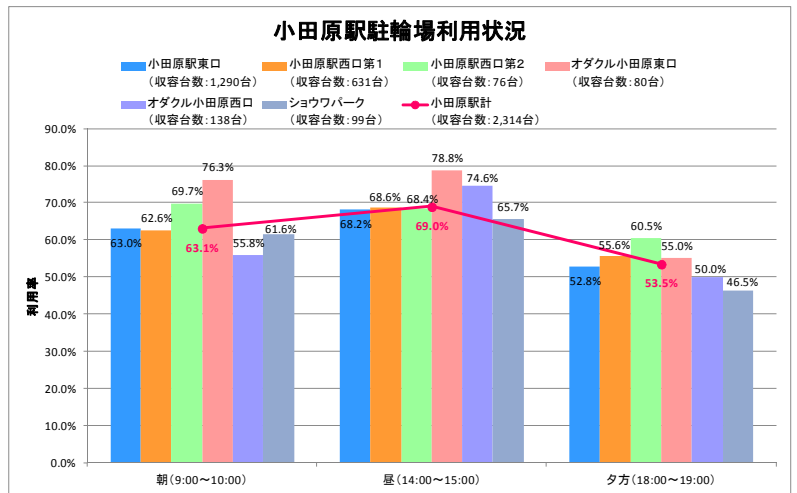
【平日】

小田原駅にある6つの駐輪場は、平均で約60%前後の利用状況となっている。ピーク時は昼(14:00~15:00)の時間帯であり、オダクル小田原東口、オダクル小田原西口の利用率が高い。小田原駅西口第2駐輪場は原付の定期利用のみの運営であるが、夕方(18:00~19:00)の時間帯においても60.5%と相対的に高い利用状況となっている。ただし、定期利用の駐輪場は、契約台数は満車になっており、契約待ちが発生している状況である。

【休日】

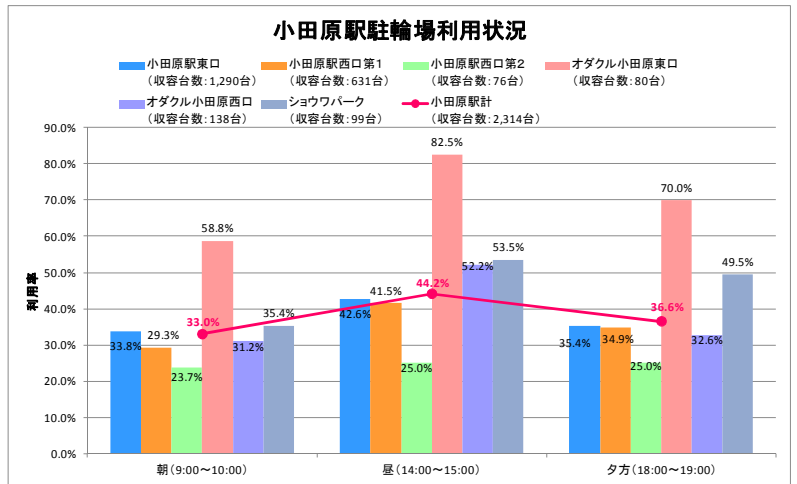
休日の利用率は、平日に比べると全体的に20%程度低くなるが、オダクル小田原東口の利用率は平日よりも高い状況にある。

【平日】



※利用状況結果には原付や自動二輪車も含む

【休日】



※利用状況結果には原付や自動二輪車も含む



※図中の緑ハッチは、放置自転車禁止区域

### (3) 鴨宮駅駐輪場利用状況

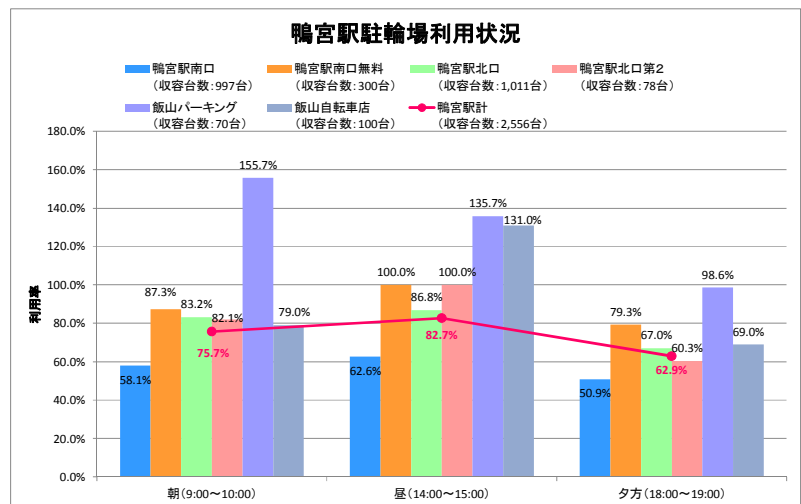
#### 【平日】

鴨宮駅の利用率は、南口では鴨宮駅南口駐輪場の利用が低いが、定期利用待機が発生しており、他の駐輪場では約80%以上の利用状況となっている。北口では、鴨宮駅北口駐車場の利用が80%台となっているが、その他の駐輪場では100%以上の利用がされている。特に、飯山パーキングと飯山自転車店は、ラックを伴わない平置き駐輪場であるが、ピーク時には利用者が車両を詰めての利用や車路を含めた利用が行われており、その面積に比べて駐輪台数が多い。

#### 【休日】

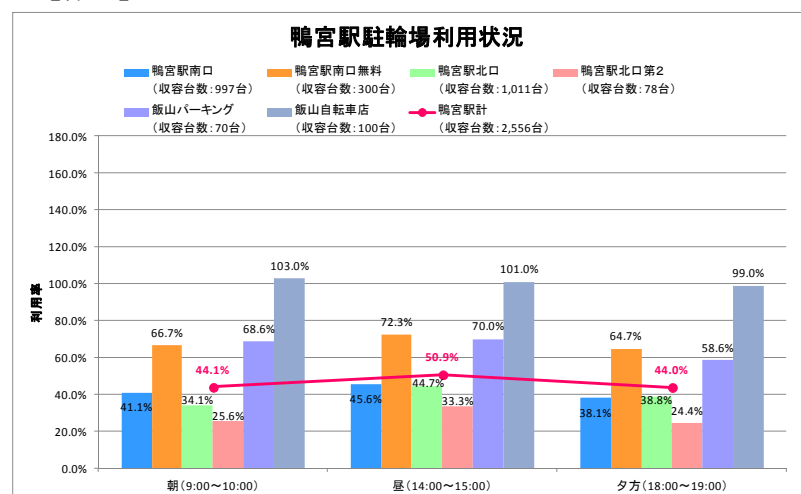
休日は、平日の利用に比べ全体的に30%程度低くなるが、飯山自転車店は利用率が平日よりも高くなる。飯山自転車店は、利用券が回数券方式であることや、立地が駅正面で平面利用であることなどから、利用率が高いものと推察される。

#### 【平日】



※利用状況結果には原付や自動二輪車も含む

#### 【休日】



※利用状況結果には原付や自動二輪車も含む



※図中の緑ハッチは、放置自転車禁止区域

#### (4) 国府津駅駐輪場利用状況

##### 【平日】

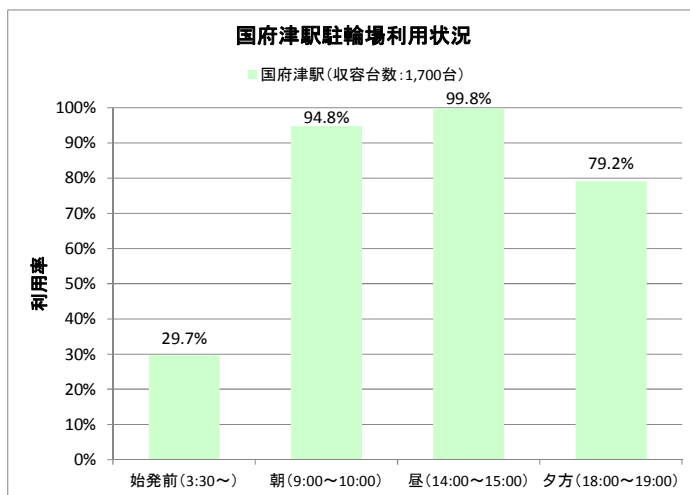
国府津駅は、朝の時間帯から約 95%の利用率となり、昼の時間帯にはほぼ満車となる。また、始発前においても約 30%の利用が見られる。

##### 【休日】

休日は、平日の利用に比べ全体的に 30%程度低くなる。また、平日と同様、休日についても始発前に約 30%の利用が見られる。

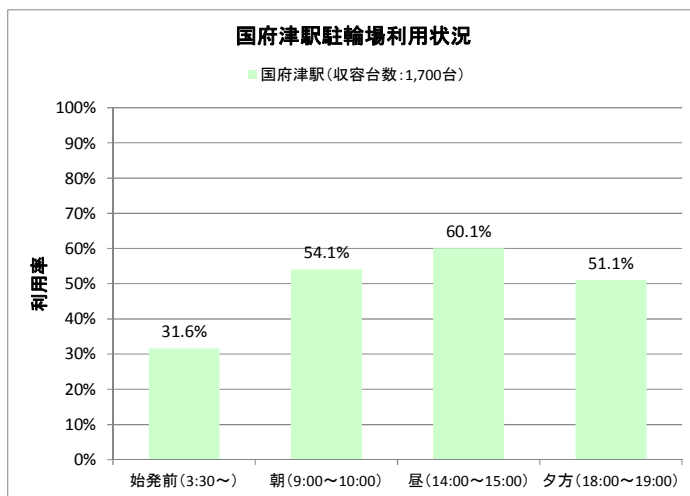


##### 【平日】



※利用状況結果には原付や自動二輪車も含む

##### 【休日】



※利用状況結果には原付や自動二輪車も含む

(5) 各鉄道駅の利用状況

【平日】

駐輪場が設置されている鉄道駅 10 駅（小田原駅、鴨宮駅、国府津駅を除く）のうち、7 駅で駐輪場は充足している状況である。

ただし、早川駅、井細田駅、五百羅漢駅において、無料駐輪場が設置されているが、100%を超える利用率となっており、特に井細田駅においては、調査を行った9時から19時の間、終始200%を超える利用率となっており、駐輪場の不足が発生している状況である。

【休日】

休日は、平日100%を超える利用率となっている早川駅、五百羅漢駅においては、収容台数以下の利用状況となっているが、井細田駅においては、平日に比べ利用は、大幅に減少しているものの、100%を超える利用率となっており、駐輪場の不足が発生している状況である。

表 各鉄道駅の駐輪場利用率（小田原、鴨宮、国府津を除く）

No	駅名	駐輪場名	収容台数	種別 (料金)	平日利用率 (%)			休日利用率 (%)		
					9:00 ～ 10:00	14:00 ～ 15:00	18:00 ～ 19:00	9:00 ～ 10:00	14:00 ～ 15:00	18:00 ～ 19:00
1	早川駅	早川駅	180	無料	109.4	112.8	88.9	77.2	88.3	69.4
2	下曽我駅	下曽我駅	280	有料	26.4	25.7	17.9	12.1	18.6	14.3
3	足柄駅	オダクル足柄第1	99	有料	48.5	53.5	36.4	31.3	37.4	33.3
		オダクル足柄第2	328	有料	29.6	31.3	24.7	18.9	20.1	17.4
4	蛭田駅	蛭田駅	250	無料	73.6	78.4	54.8	35.2	54.0	48.0
5		蓮正寺住宅前	198	無料	71.7	79.7	65.2	54.5	65.2	51.5
6	富水駅	富水駅	350	無料	80.9	83.4	77.1	47.1	57.4	49.7
7		オダクル富水 第1・第2	682	有料	38.3	39.9	35.0	18.3	24.3	23.3
8	栢山駅	栢山駅	712	無料	53.5	61.7	55.1	42.3	47.9	40.4
9		オダクル栢山	386	有料	31.3	36.3	31.3	21.5	25.4	22.3
10	井細田駅	井細田駅	28	無料	264.3	289.3	214.3	142.9	189.3	121.4
11	五百羅漢駅	五百羅漢駅	80	無料	113.8	125.0	73.8	48.8	61.3	41.3
12	飯田岡駅	飯田岡駅	200	無料	54.5	59.5	53.0	39.0	50.5	35.0
13	箱根板橋駅	大窪公園	150	無料	57.3	62.0	46.0	30.0	43.3	30.7

※利用状況結果には原付や自動二輪車も含む

### 路上駐輪状況調査の方法

小田原駅周辺の路上駐輪が著しい通りにおいて状況調査を行った。調査は、調査員が1時間に1回定期的に駐輪車両数をカウントして行った。

### (6) 路上駐輪状況

路上（敷地からはみ出し）駐輪状況において、ピーク時間帯に、オダクル小田原東口前では46台、錦通り商店街では36台、銀座商店会では6台、ダイヤ街商店会では77台の路上駐輪が見られた。休日昼のショウワパーク駐輪場の利用状況は53.5%であることをはじめ、小田原駅周辺の駐輪場は満車状況となっていないにもかかわらず、路上駐輪されている状況である。

店舗前（敷地内）の駐輪状況を見ると、わずかではあるが、店舗の営業開始前から駐輪されていることが確認された。



表 路上（敷地からはみ出し）駐輪状況

エリア	ピーク時間	駐輪状況
オダクル小田原東口前	休日 13 時台	・ピーク時に 46 台の路上駐輪
錦通り商店街	休日 14 時台	・ピーク時に 36 台の路上駐輪
銀座商店会	休日 10 時台 休日 15 時台	・ピーク時に 6 台の路上駐輪
ダイヤ街商店会	休日 16 時台	・ピーク時に 77 台の路上駐輪
計（各ピーク時間帯の合計）		165 台

表 店舗前（敷地内）駐輪状況

エリア	ピーク時間	駐輪状況
ドン・キホーテ 店舗前ラック	休日 15 時台 休日 16 時台	・ピーク時に 19 台の自転車が駐輪 ・ドン・キホーテ開店時間（9 時）前に 5～7 台の自転車が駐輪（原付も 1 台停車）
小田原EPOおよび 小田原APRI 敷地内	休日 15 時台	・ピーク時に 132 台の自転車が駐輪 ・西友開店時間（8 時）前に 3～4 台の自転車が駐輪（原付も 1～2 台停車）
SKIP敷地内	休日 14 時台	・ピーク時に 52 台の自転車が駐輪 ・SKIP開店時間（9 時）前に 4～8 台の自転車が駐輪
計（各ピーク時間帯の合計）		203 台

意識調査の方法

駐輪場利用者を対象に、駐輪場の利用目的、利用理由、雨の日の場合想定される行動、有料化された場合などを確認するため、利用者意識調査を実施した。意識調査は、駐輪場利用者に対して手渡しにより調査票を配布し、郵送での回収を依頼した。

アンケートは、駐輪場のある各鉄道駅の駐輪場利用者を対象とし、平日（平成 26 年 9 月 18 日）1,740 票・休日（平成 26 年 9 月 14 日）280 票（小田原駅、国府津駅のみ）の配布を行い、498 票の回答を得た。（回収率 24.7%）

(7) 利用者意識

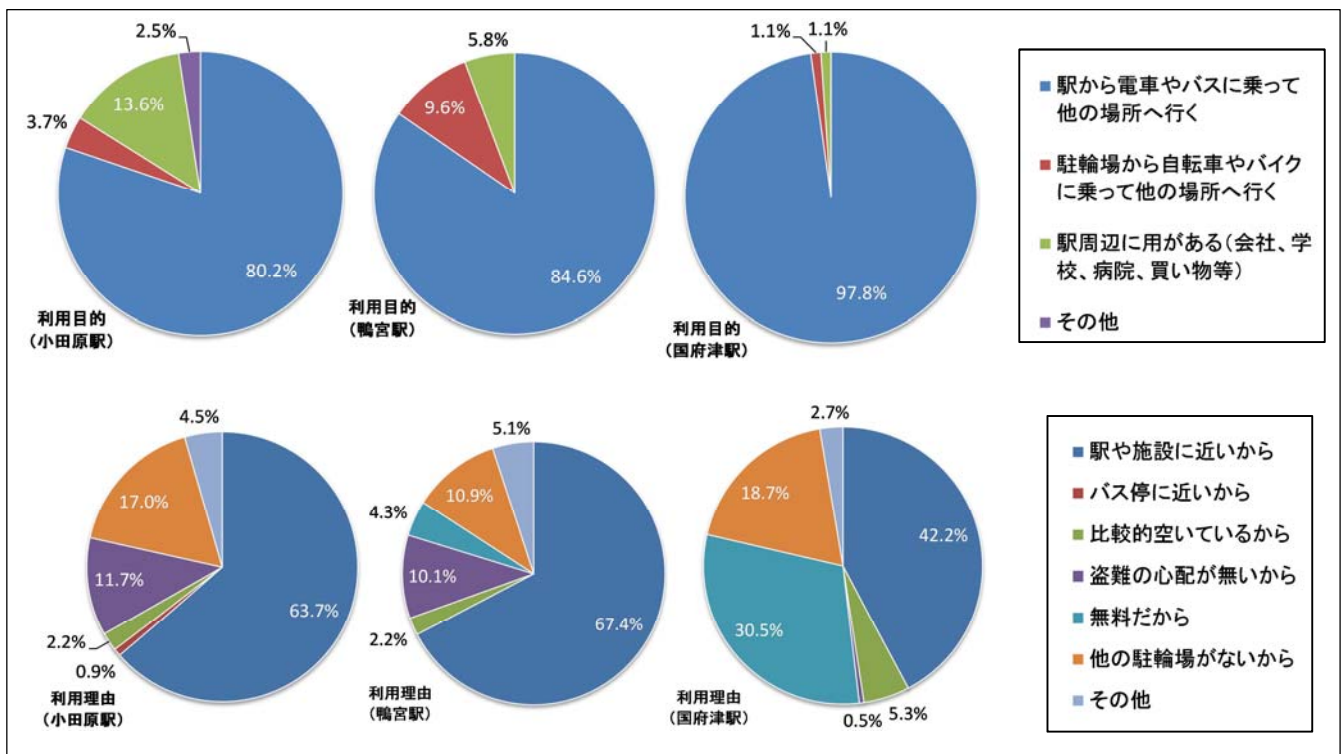
【利用目的】

すべての駅について、「駅から電車やバスに乗って他の場所へ行く」という回答が 80%以上を占めている。

【利用理由】

多くの駅で「駅や施設に近いから」という利用理由が半数以上を占めている。また、「無料だから」という利用理由も比較的多い。

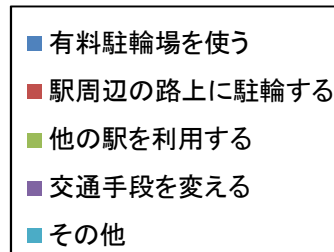
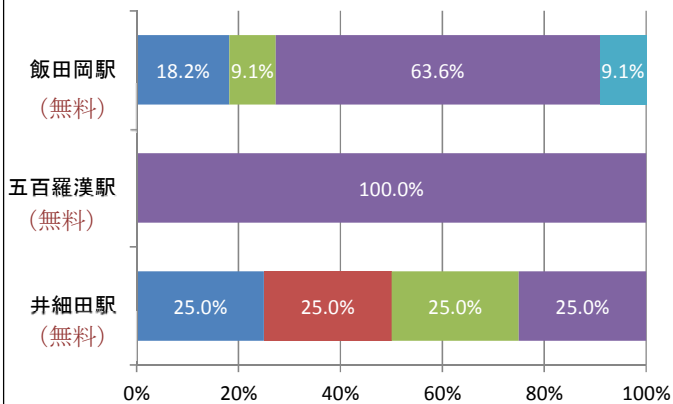
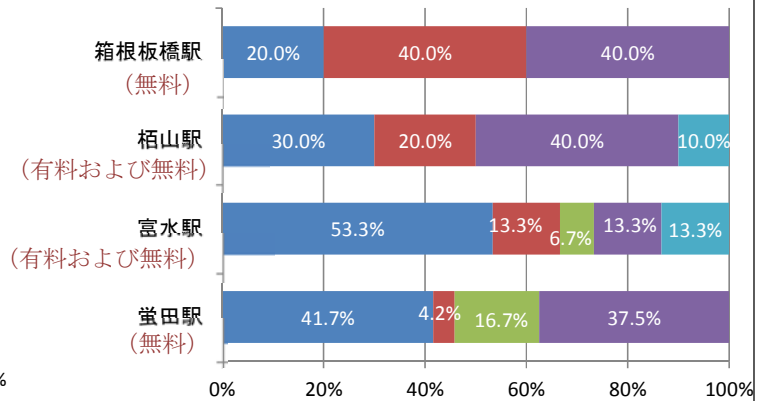
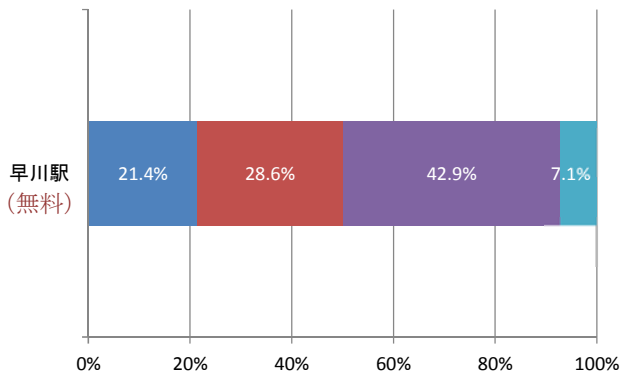
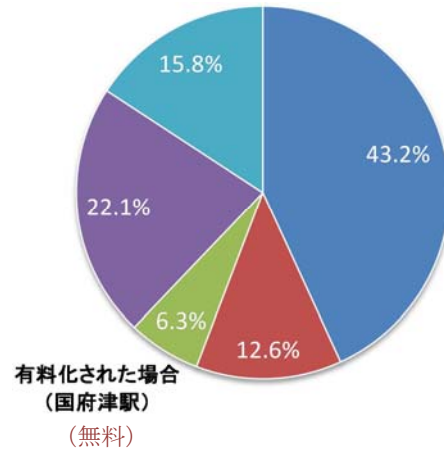
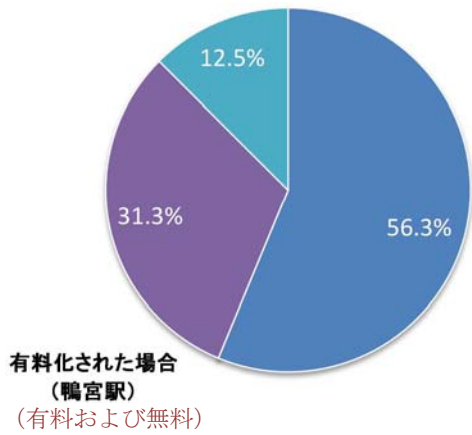
小田原駅や鴨宮駅は大規模な有料駐輪場が整備されていることから、「盗難の心配が無いから」という回答も約 10%みられた。



※四捨五入により 100%とならない場合がある

【有料化された場合】

無料駐輪場利用者を対象に、無料駐輪場が有料化した場合の行動を聞いたところ、すでに有料駐輪場を有している鴨宮駅や富水駅においては、「有料駐輪場を使う」という回答が50%以上を占める。無料駐輪場のみの駅では、「交通手段を変える」という回答が多い。また、「駅周辺の路上に駐輪する」という回答も比較的多くみられる。



※四捨五入により 100%とならない場合がある



(8) 関係団体ヒアリング結果

駐輪場に関する状況や意見を把握するため、小田原駅周辺の自治会および商店会、小田原箱根商工会議所、小田原市観光協会、建築士事務所協会県西支部、宅建協会小田原支部の関係団体にヒアリングを行った。

■ヒアリングの主な意見

団体	概要
自治会 商店会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 店先の道路上に来店客が駐輪しているが、問題ではない（店先の自転車もお客様）</li> <li>・ 路上駐輪は、錦通り、ダイヤ街や東通りのセブンイレブン、庄屋、マルイ裏に多い</li> <li>・ 駐輪場は、錦通り、エポ・アプリ周辺に必要である</li> <li>・ 通勤・通学者にエポ・アプリ敷地内に朝の時間帯は駐輪させないようにすべきであり、その上で、通勤・通学者のために駅周辺にさらに駐輪場を整備すべきである</li> <li>・ 民間の駐車場の一部を駐輪場としてはどうか</li> <li>・ 駐輪場の整備は、違法駐輪の問題解決に必要であり、行政と商店会が協力していくべきである</li> <li>・ 土地代は商店街、ラック等の整備は行政負担とするなどの方法が考えられる</li> <li>・ 自転車の走行マナーが非常に悪く、危険であるので、警察と協力して対策を考えるべきである</li> <li>・ 駐輪場の位置がわかりづらいため、わかりやすい案内が必要である</li> <li>・ 無料駐輪場がほしい</li> </ul>
小田原箱根 商工会議所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通勤・通学者も商店会（エポ・アプリ周辺）に停めている</li> <li>・ 地下街がオープンするとさらに駐輪場の需要が高まる</li> <li>・ 自転車で地下街まで来る場合、どこに停めるか想定できない</li> <li>・ 省スペースの地下機械式の駐輪場を検討してはどうか</li> </ul>
小田原市 観光協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一部商店街では路上駐輪があるものの、駅周辺において、駐輪場は足りていると考える</li> <li>・ 小田原駅周辺は放置自転車禁止区域であり、路上駐輪の撤去強化が必要である</li> </ul>
建築士 事務所協会 県西支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 街なかの駐輪場は、公共の駐輪場が望ましいが、まちづくり会社などの団体に検討してはどうか</li> <li>・ マンション建設の場合、駐車場を減らし、駐輪場を増やすなど、駐輪場の附置義務を設けていくことも必要である</li> <li>・ 駐輪場を増やすことで、駅周辺の消費に繋がる</li> </ul>
宅建協会 小田原支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心市街地内の駐輪は著しく問題がある</li> <li>・ 小田原市の地形は自転車に適しており、駅利用や買い物など自転車利用のニーズは今後も膨れ上がる余地がある</li> <li>・ 一概に路上駐輪を不法駐輪と捉えず、自転車での集客力を高めていくべきである</li> <li>・ 今後は、大型の駐輪場が必要で、遊休地や屋上など、空中・空間の利用も検討すべきである</li> <li>・ 駐輪スペースを提供してくれる民間事業者に対しては、容積緩和や補償など、逸失する資産を別のものに振り替える施策が必要である</li> </ul>

## 4. 駐輪場整備の目標年次および目標量

### (1) 目標年次

本計画の目標年次は、概ね 15 年後となる平成 42 年を見据えることとする。ただし、おだわら TRY プランとの整合や、その他関連計画とともに進める必要があることから、8 年後の平成 34 年度を中間の目標年次とする。

### (2) 整備目標量

#### 【小田原駅・鴨宮駅】

小田原駅の駐輪場整備目標量は、定期待機状況を踏まえ、現状で 157 台の不足分を確保する。ただし、今後の駐輪需要の減少により、西口では平成 34 年に 45 台まで減少し、平成 42 年には 22 台まで減少する。東口については、平成 34 年、平成 42 年ともに現状の収容台数で需要を満たす推計となる。

鴨宮駅の駐輪場整備目標量は、定期待機状況を踏まえ、現状で 162 台の不足分を確保する。

ただし、今後の駐輪需要の減少により、北口では平成 34 年に 20 台まで減少し、平成 42 年には、現状の収容台数で需要を満たすことになる。南口では、平成 34 年、平成 42 年ともに現状の収容台数で需要を満たす推計となる。

#### 【小田原駅周辺】

小田原駅周辺の商店街等では、道路や歩道上の違法駐輪や、敷地からはみ出している違法駐輪状況を踏まえ、その合計値である 165 台の不足分を確保する。

ただし、将来的には、駐輪需要の減少、(仮称)小田原駅東口立体駐車場(80 台)の整備によるオダクル小田原東口前の路上駐輪の誘導が期待できるため、平成 34 年には 87 台、平成 42 年には 69 台の不足分となる。なお、目的外利用の抑制や、定められた範囲や施設へ駐輪を誘導するよう、マナー向上や啓発活動はあわせて継続的に行う。

#### 【各鉄道駅】

各鉄道駅については、将来の駅勢圏人口が減少すると予測されており、駐輪需要も減少すると推計される。平成 34 年の推計では、井細田駅は 46 台、五百羅漢駅は 12 台の不足があるが、早川駅は 6 台とほぼ需要を満たすと考えられる。

表 今後の需要予測および不足台数

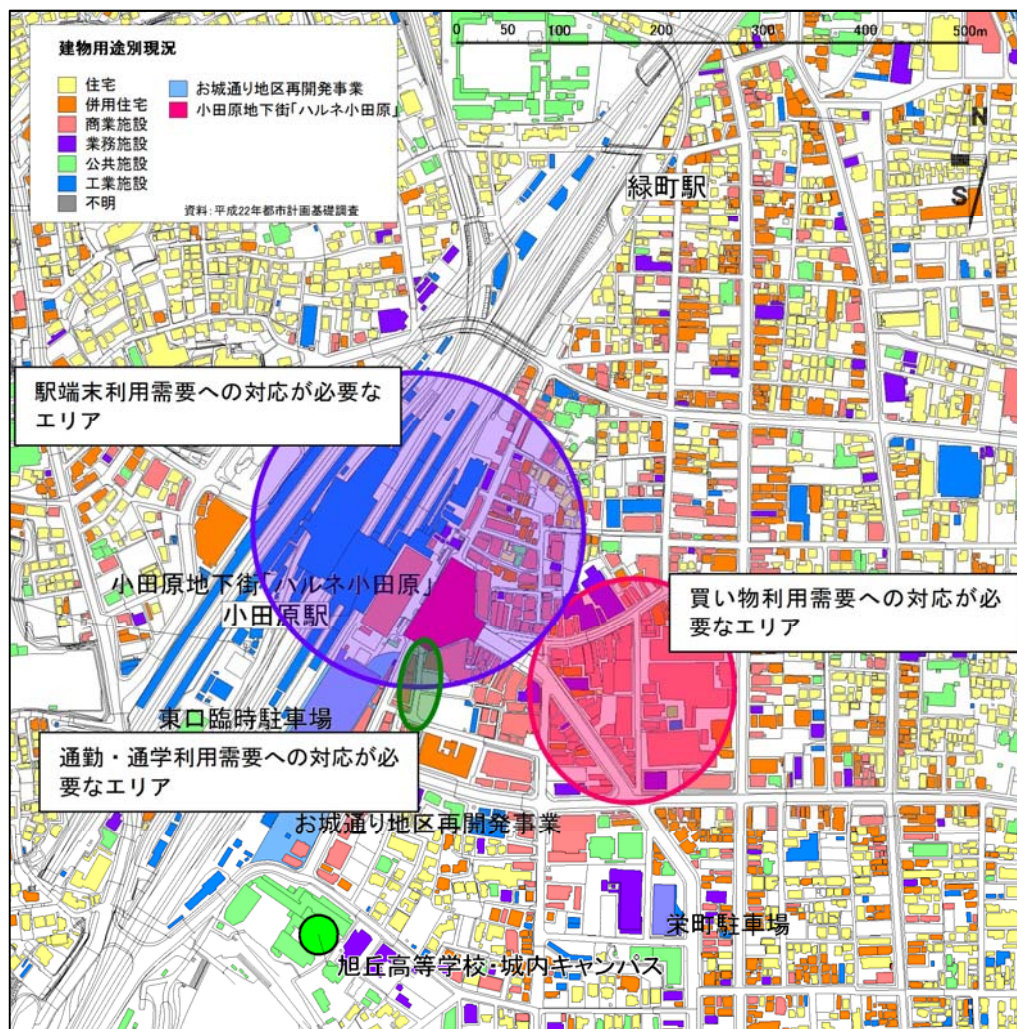
駅名	収容台数 (定期定数) (台)	駐輪需要 (台)			不足台数 (台) (定期待機および はみ出し駐輪等)			備考
		平成 26年	平成 34年	平成 42年	平成 26年	平成 34年	平成 42年	
小田原駅 東口	1,290 (966)	1,361 (1,037)	949	899	71	-	-	
小田原駅 西口	631 (396)	717 (482)	676 (441)	653 (418)	86	45	22	
鴨宮駅南口	997 (856)	1,052 (911)	834	723	55	-	-	無料駐輪場 (300 台分)
鴨宮駅北口	1,011 (921)	1,118 (1,028)	1,031 (941)	981 (891)	107	20	-	
早川駅	180	203	186	176	23	6	-	無料駐輪場
井細田駅	28	81	74	70	53	46	42	無料駐輪場
五百羅漢駅	80	100	92	87	20	12	7	無料駐輪場
小田原駅 周辺	212 (店舗敷地内駐輪数)	377	345	327	165	87	69	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗：小田原 EPO およ び小田原 APRI 敷地 内) (132 台)、SKIP 敷地内 (52 台)、ド ン・キホーテ店舗前 ラック (28 台)</li> <li>・平成 34 年と平成 42 年 は (仮称) 小田原駅東 口立体駐車場 (80 台) の整備後のためオダ クル小田原東口前の 路上駐輪 (46 台) を 誘導した数値となっ ている。</li> </ul>

## 5. 駐輪場整備に関する課題

### 課題①：駐輪場の不足

各鉄道駅前の駐輪場における駐輪状況をみると、定期利用の契約待ちが発生するなど、自転車利用需要は多く、一部では路上駐輪などが散見される状況にあり、駐輪場不足が課題である。

自転車は、自動車が利用できない学生の利用も多く、長期的には少子化傾向にあるものの、将来においても、小田原駅周辺をはじめとする一部地域では駐輪場不足が推計されており、さらに、通勤・通学や買い物等の日常的な利用に加え、健康志向やサイクリングなどのあらたなニーズによる需要も予想され、その対応が課題である。



## 課題②：街なか商業施設周辺のはみ出し駐輪等

駐輪場の実態をみると、駐輪場の数の不足もさることながら、適正な位置に配置されていないことによる路上駐輪も見受けられる。例えば、本市中心部の錦通りやダイヤ街など、買い物客の自転車が路上にはみ出し駐輪されている状況がある。また、お城通り周辺の細街路など駅利用者等が路上に長時間駐輪している状況も見られる。



## 課題③：各鉄道駅の駐輪場の利便性・安全性の向上

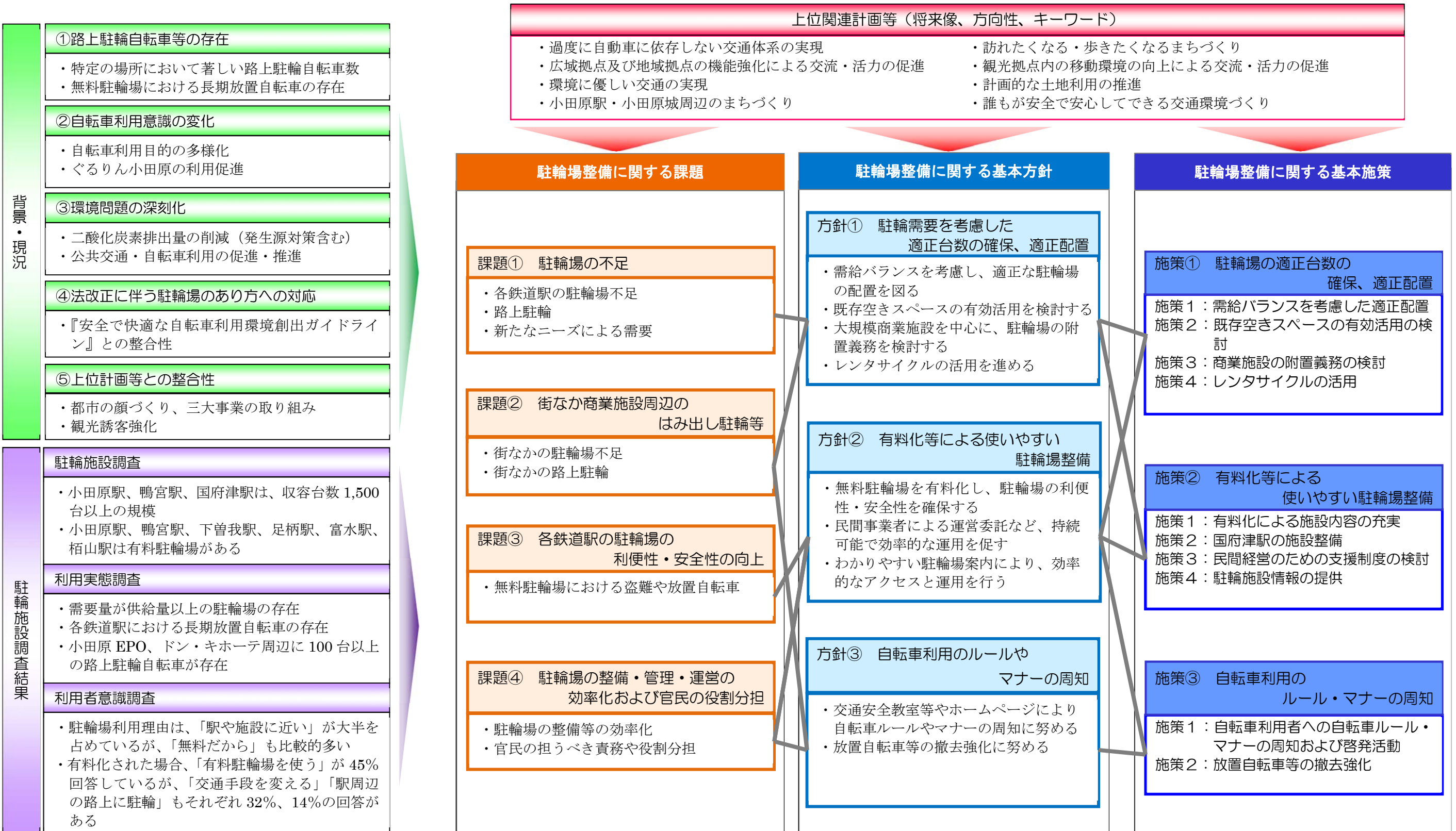
各鉄道駅の駐輪場は、伊豆箱根鉄道沿線などの小規模な駅を中心に、駐輪できる空間があるだけの無料駐輪場が散見され、屋根やラックが無いため、盗難などの問題や、長期間放置されたままの自転車が多く対応が課題である。

## 課題④：駐輪場の整備・管理・運営の効率化および官民の役割分担

駐輪場の整備や管理・運営には、多くの財源が必要であり、鉄道事業者や民間事業者による整備・管理・運営や、公共が整備し管理運営を民間委託するなど、公共だけによらない整備・管理・運営の効率化が求められる。

また、駐輪場整備に関する公共と民間の担うべき責務や役割分担などが課題である。

## 6. 課題・基本方針・基本施策のまとめ



## 7. 駐輪場整備に関する基本方針

基本方針①：駐輪需要を考慮した適正台数の確保、適正配置

基本方針②：有料化等による使いやすい駐輪場整備

基本方針③：自転車利用のルールやマナーの周知

基本方針①：駐輪需要を考慮した適正台数の確保、適正配置

- ・需給バランスを考慮し、適正な駐輪場の配置を図る
- ・既存空きスペースの有効活用を検討する
- ・新たな大規模商業施設を中心に、駐輪場の附置義務を検討する
- ・レンタサイクルの活用を進める

基本方針②：有料化等による使いやすい駐輪場整備

- ・無料駐輪場を有料化し、駐輪場の利便性・安全性を確保する
- ・民間事業者による運営委託など、持続可能で効率的な運用を促す
- ・わかりやすい駐輪場案内により、効率的なアクセスと運用を行う

基本方針③：自転車利用のルールやマナーの周知

- ・交通安全教室やホームページにより自転車利用のルールやマナーの周知に努める
- ・放置自転車等の撤去強化に努める

## 8. 駐輪場整備に関する基本施策

### 基本施策①：駐輪場の適正台数の確保、適正配置

#### 施策1：需給バランスを考慮した適正配置

- ・（仮称）小田原駅東口立体駐車場（80台）など、あらたな施設整備や既存の施設更新などを踏まえ、地域特性に応じた駐輪場の適正配置の考え方を構築する。
- ・配置については、各鉄道駅と、本市中心部における需給バランスを考慮した適正配置を検討する。また、歩行者ネットワーク計画や自転車ネットワーク計画と整合を図った配置を行う。

#### 施策2：既存空きスペースの有効活用の検討

- ・需給バランスに応じて、駅周辺においてゆとりのある車道や歩道上、既存の高架下空間等の空きスペースにおいて、駐輪場整備の可能性を検討する。具体的には、現在、路上駐輪が著しいお城通り周辺（オダクル小田原東口前）について、歩行者の安全も考慮し、路上駐輪施設の設置の可能性の検討を行う。
- ・また、駅周辺に点在する時間貸し駐車場のうち、駐輪場への部分転用の可能性についても検討する。



図 歩道上空間を活用した駐輪場の例（豊島区）

#### 施策3：商業施設の附置義務の検討

- ・多くの自転車利用が予想される新たな商業施設に対しては、一定程度の責務を課すための附置義務を検討する。
- ・既存商業施設の駐輪場整備に関しては、行政による支援制度やインセンティブとなる制度なども含めて検討する。
- ・従業員の駐輪に対しても、確保のあり方を検討する。

#### 施策4：レンタサイクルの活用

- ・観光については、レンタサイクルの活用を進める。また、観光施設等に駐輪スペースの整備を検討し、自転車での観光を促進する。
- ・なお、具体の観光施設等との連携や駐輪場所設置の可能性については、各関係機関および各種計画と調整・整合を図り進める。



## 基本施策②：有料化等による使いやすい駐輪場整備

### 施策1：有料化による施設内容の充実

- ・現在の各鉄道駅における無料自転車等駐輪場は、有料化による施設内容の充実や民間による運営委託など、利便性・安全性の向上を検討する。あわせて、必要に応じ、放置自転車禁止区域の見直しを検討する。
- ・また、既存の有料駐輪場においても、出入庫動線や施設の構造など、さらなる利便性・安全性の向上を検討する。

### 施策2：国府津駅の施設整備

- ・国府津駅無料駐輪場は、約 1,700 台の収容台数で利用状況は、平日の朝昼は 100%近い利用率となっており、需要は高い。
- ・ただし、平日も休日も始発前に 30%程（約 500 台）駐輪があり、意識調査結果からは、夜間利用している利用者数は、1.1%であることから、始発前の駐輪は、ほぼ放置自転車と推計される。
- ・また、意識調査結果により、「有料化された場合、交通手段を変える」という回答が 22.1%見られるが、始発前に駐輪されている自転車がほぼ放置自転車と仮定すると、駐輪場の必要規模は、現在の約半分の面積という試算結果が得られた。
- ・よって、有料駐輪場の整備にあたっては、駅前広場周辺整備と一体的に検討することとし、長期にわたる放置自転車や盗難被害なども含めた施設の利用状況および需要の再確認を行い、公益財団法人自転車駐輪場整備センターの活用等も検討する。



### 施策3：民間経営のための支援制度の検討

- ・民間による自転車等駐輪場の管理・経営を促進するため、行政による支援制度を検討する。
- ・支援制度は、補助金等の一時的なものではなく、土地もしくは初期投資を行政が支援し、運営その他を民間が担うなど、多様で柔軟な支援制度の可能性についても検討する。

### 施策4：駐輪施設情報の提供

- ・駐輪場案内マップを作成し、駐輪場の最新情報を提供するとともに利用促進に努める。
- ・駐輪場案内マップは、ホームページでも情報を提供する。
- ・駐輪場案内マップに観光施設とレンタサイクル“ぐるりん小田原”の情報を掲載し、自転車による観光促進を目指す。自転車による観光促進に向けて、観光パンフレットへの掲載依頼など、PRに努める。

## 基本施策③：自転車利用のルール・マナーの周知

### 施策1：自転車利用者へのルール・マナーの周知および啓発活動

- ・ ホームページ等に自転車ルールを掲載し、ルールやマナーの周知を徹底する。
- ・ 本市や小田原警察署主催の交通安全教室やチリリン・スクール等のルールやマナーの啓発活動の強化を検討する。
- ・ 小田原サイクルフェスティバル等の自転車関連イベント開催時に積極的に自転車利用ルール・マナーの啓発活動を行う。



図 （左写真）交通安全教室の様子（市立白鷗中学校 HP）、  
（右写真）小田原サイクルフェスティバルの様子（小田原サイクルフェスティバル特設サイト）

### 施策2：放置自転車等の撤去強化

- ・ 放置自転車禁止区域内の路上駐輪や無料駐輪場内の長期放置自転車の撤去を強化し、歩行者や自転車の安全性の向上やまちなみ景観の維持に努める。